

2018 J2 順位表 第 21 節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	大分	40p	+10	38	28	A●
2	山口	39p	+6	37	31	H△
3	町田	37p	+10	35	25	H●
4	松本	37p	+10	32	22	HO
5	福岡	36p	+8	29	21	A●
6	横浜FC	35p	+3	28	25	H●
7	山形	33p	+4	28	24	A●
8	大宮	32p	+7	31	24	AO
9	東京V	32p	+7	28	21	A△
10	岡山	31p	+4	23	19	A△
11	岐阜	29p	+4	27	23	---
12	甲府	28p	+10	33	23	H●
13	千葉	28p	-3	35	38	AO
14	金沢	27p	0	27	27	H●
15	新潟	26p	-3	23	26	HO
16	徳島	25p	-1	20	21	H△
17	水戸	25p	-5	21	26	HO
18	熊本	22p	-13	25	38	AO
19	栃木	20p	-13	18	31	H△
20	讃岐	18p	-14	18	32	AO
21	京都	16p	-15	18	33	A●
22	愛媛	15p	-15	13	28	AO

today's guest : **愛媛FC**

2017 J2 14勝9分19敗 勝ち点51:15位

直近の対決と結果

2018/03/25
J2 - 6 節 @ ニンスタ
愛媛 1-3 岐阜
田中パウロ淳一 x3 scored.

ここ 3 試合の公式戦の結果

FC岐阜	愛媛FC
2018/06/30 J2 - 21 節 @ N D スタ 山形 2-0 岐阜	2018/06/30 J2 - 21 節 @ N A C K 大宮 1-1 愛媛
2018/06/23 J2 - 20 節 @ 長良川 岐阜 2-2 山口	2018/06/23 J2 - 20 節 @ ニンスタ 愛媛 0-1 水戸
2018/06/17 J2 - 19 節 @ 長良川 岐阜 0-1 町田	2018/06/16 J2 - 19 節 @ フクアリ 千葉 2-1 愛媛

●6/23 (土) 第 20 節。首位・山口をホームに迎えた F C 岐阜は、試合序盤に山口のエース、オナイウ阿道に先制点を決められ、ペースを握られる。お互いに決定機を迎えながらもその後は無得点で前半を終えると、後半は岐阜がペースを握り、エース # 11 古橋亨梧の連続ゴールで逆転に成功。しかし直後に再びオナイウに同点弾を許すと、両チームともオープンな撃ち合いに。試合終盤、山口の大崎淳矢が退場となり 10 人となった山口に襲いかかる岐阜だったが、最後の精度を欠き、2-2 で勝ち点を分け合う結果になった。そして、2018 シーズン前半戦最後の試合は、6/30 (土) 第 21 節・アウェイ山形戦。勝利でシーズンを折り返したかったが、今節も山形のプレスに押し込まれ、前半で 2 失点してしまう岐阜。後半もチームが機能せず、そのまま 0-2 で試合終了。4 連勝の後は 3 戦未勝利というほろ苦い結果で、シーズン前半戦を終えた。

現在の F C 岐阜の順位は暫定 11 位にまで後退。やはり 3 試合で勝ち点 1 しか獲れないと、上位では大きく順位を落としてしまう。ただし、前半戦を終えて暫定 11 位・8 勝 5 分 8 敗と五分で得失点差が + 4 というのは、クラブ史上最も好成績ということも事実だ。まだ、6 位・横浜 F C までの勝ち点差が 6、首位・大分も勝ち点 11 差と、諦めずに食らいついて行ける順位でもあるが、6 位・横浜 F C から暫定 17 位・金沢までが勝ち点差 9 と、後半戦の流れではまだまだ大きく順位が変動する可能性がある。ましてやシーズンを折り返し、相手が一巡しての後半戦となると、お互いに研究・対策をした上での対戦となるため、戦術面での修正・進化をしないと勝てなくなる。チームの底上げが求められる。さて、シーズン後半戦の初戦となる、今節の対戦相手は愛媛 F C。昨シーズンは 15 位の成績だったが、今季は開幕 4 連敗と大きくつまずき、第 14 節終了時に 2 勝 4 分 8 敗・直近 7 試合未勝利で 20 位に低迷していたため、クラブは間瀬秀一監督との契約を解除。後任には地元愛媛県出身・クラブ生え抜きの川井健太監督が就任し、チームの立て直しを図ったが、その後も 7 戦して 1 勝 2 分 3 敗の成績で、現在は 22 位と J 3 降格圏にいる。しかし、前節は大宮に 1-1 で引き分けており、チーム浮上の手応えを掴んでいるだろう。難しい試合になることが予想される。

通算対戦成績では、F C 岐阜の 7 勝 10 分 6 敗・25 得点 29 失点、ホーム戦では 5 勝 5 分 2 敗・19 得点 18 失点と勝ち越している。昨年のホーム戦・9/3 (日) 第 31 節では、# 14 風間宏矢が先制し、追いつかれるも # 24 難波宏明の決勝ゴールで 2-1 の勝利。前回の対戦となる 3/25 (日) 第 6 節・アウェイ戦では、# 7 田中パウロ淳一が自身初となるハットトリックを達成して 3-1 での勝利。しかし、僕らは余裕を持って勝利できるほどのチームではない。常に挑戦者として戦うことが求められるだろう。

愛媛の要注意選手には、合計 3 得点、直近 5 試合で 2 得点で気を吐いている # 7 近藤貴司を挙げておきたい。スピードとパワーのある突破を、岐阜の守備陣には封じて欲しい。また、愛媛は川井監督に交替してから、F C 東京からレンタル移籍した # 6 野澤英之がポランチ起用されている。昨年は岐阜にレンタル移籍していた選手、その活躍は嬉しいが、今節は活躍させる訳にはいかない。

シーズン前半戦を終えて、僕は今まで見ていない景色を見ている。そして後半戦、ここからが正念場だ。チーム・フロントそしてサポーターも試されることになるだろう。そんな中、目の前の 1 試合を常に全力で戦って、そして勝利を積み重ねていくことで、クラブに新たな歴史を作っていくなくてはならない。僕らサポーターも、勝利に向けて最後までひたむきに走り戦う、そういった F C 岐阜の選手たちを信じて、その背中を後押しして励まし、時には叱咤激励する、そういった拍手と声援を、ホームスタジアム・長良川に大きく響かせよう。最後まで、その歓喜の瞬間を信じて。(ささたく)

次回HomeGame

第 25 節 vs. カマタマーレ讃岐
7/25 (水) 19:00【平日開催】
@ 岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン
名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後 3 時から営業
TEL.058-263-5201

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

湯麺 戸塚
店主: 戸塚 哲也
瑞穂市穂積 1 5 9 6 - 4
11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)
お休み情報 twitter: @Tanmen_Tozuka
☆☆☆各務原店もよろしく!!☆☆☆

「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は JR 岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩 3 分。休: 月曜日

投稿募集 !!
gidaidohri@gmail.com

【第20節】岐阜 2-2 山口

●前節、残念ながら町田のハードプレス・シンプルに縦へ繋ぐ戦術に、まるで歯が立たなかった岐阜。あれが2012年にはJ2残留争いを演じたチームの、現在の実力なのかと唸らざるを得なかったけど、今節は首位の山口。昨年はJ2残留争いをしていたチームが、今年はJ2優勝争いをしてるんだから、J2って、ホントに怖い（厳しい）リーグですよねぇ……（苦笑）。

さて、現在J2得点王の#19オナイウ阿道は間違いなく要注意選手で…なのに、なんでゴール前でどフリーに…いや、そういう動きが得意だから、ゴールを量産していると言うべきなのか（溜息）。そして前節の町田と同様、前線からのハイプレスで岐阜の攻撃を封じにくる山口。うーん、やっぱり研究されてるよなあ。ボールを持った岐阜の選手が前を向けずに、横や後ろにパスを出したところを、さらにボールを狙われ、カウンターを仕掛けられる。幸いなことに（?）、フィジカルガチガチの町田よりは、山口のあたりは比較的激しくないのか、それとも町田と対戦して少しは岐阜の選手が慣れたのか、町田戦よりは見られる試合展開だったけれど、それでも、試合序盤の岐阜の攻勢を除けば、山口の思惑通りに進んだ前半だったと思う。

ところが、だ。後半になると、岐阜のボール回しのスピードが上がりだす。山口の選手が寄せて来る前にボールを繋ぎ、プレスを剥がし、縦にボールを入れる。なんで前半からこれをやらないの…と思ったけど、岐阜の選手たちも、ボール回しが速いから精度が落ちてパスミスが目立つように。それと、多分これを90分間実行するのは保たないのかもしれない。ただ、山口の選手もプレスを剥がされて足が止まりだし、お互いにオープンな展開になる中、我らがエース・#11古橋亨梧の同点弾そして逆転弾！！スタジアムのボルテージは最高潮に！！

しかし、ここですぐ同点に追いつくのはさすが首位・山口、決めるのはさすがオナイウといったところですね…（溜息）。その後、#7大崎淳矢が立て続けに警告2枚で退場になり、山口は10人になり、岐阜の攻勢になるが、決めきれない。結局、2-2で引き分けて試合終了。

うーん、悔しい！“首位”山口に勝ちたかったし、あと少しで勝てる試合だった。この少しの差が、僕らと首位との差なのだろうか。人数が1人少ない相手なのだから、次々と縦に速くボールを入れてパワープレイを仕掛けたい所なのに、それが出来ない。首位相手に良く戦ったと言いたいところだけれど、今よりも上を目指すためには課題も残る試合だったと思う。（ささたく）

●終了直後は「勝てたなあ、勝ちたかったなあ〜。」と思ってたけど、時間が経つにつれ、「勝たなきゃいけない試合だったんでは？」という思いに駆られてしかたがない。観戦仲間の言に影響されたかな（苦笑）。

前節で上位の町田に封じ込められた後の首位との対戦。最上位との対戦で互角に（互角以上にと言いたいところだが）渡り合い、終盤はほぼ一方的に追い込んでいただけに「もったいない……。」という思いが募る。あれで、もし、悠斗のFKが決まっていたら、いったい何人ぶっ壊れていただろうか？それでも、初観戦の方や久々の観戦だった方達には楽しんでもらえたのではないだろうか。今季は、こんな試合、これ以上の試合がいくつも見られますよ〜。ぜひ、また来てくださいね！

しかし、相手のエース・ストライカーは厄介なこと、この上ないな。体格イのに動きの素早いこと、素早いこと。2点ともDFの背後を取ってクロスにドン！ネコ科の動物が獲物を狙う時ってあんな感じかも？と思わせるような細心さ。「音もなく」というのは、ああいう動きなかもしれない。

とはいえ、空恐ろしさという点ではキョーゴもとんでもなかった。右足と左で1点ずつ取るのもスゴイが、特に1点目なんか、

なんで決まったのかわからなかった。いや、シュートを撃った瞬間は、決まることが想像できなかった。なのに、GKが動かない。動けなかったのか？キョーゴの近くにいたDFも含めて、時間を止められてしまったかのようだった。『ザ・ワールド』（荒木飛呂彦原作／ジョジョの奇妙な冒険・第3部より）の能力が発動されたら、こんな感じになるのかもしれない。2点目も、反転して、あのタイミングで打つか？もはや、「打てば決まる！」みたいな感覚あるね。ヤバいなあ、マズいなあ、次の日本代表に選ばれちゃうだろ。「古橋亨梧は岐阜が育てた。」と、文字通りに公言できる日が待ち遠しい。今から妄想が止まらない。が、まずは目前のリーグ戦。厳しい試合が続くが、勝たないと上には行けない。山形でも精一杯あと押ししてきます！（ぐん）

●やはり19節の町田戦の印象が強烈だったせいか、どうしても対戦相手を比較する時に基準が町田になってしまう。だから、かつての「上野レノファ」を彷彿とさせるオートマチックなサッカーで先制され、1点ビハインドで前半を終えた時も、ぼくもメインスタンドの観戦仲間も「全然オッケー、まだやれる」と前向きだった。左サイドを突破したキョーゴがちゃんと中にカットイン出来ている。

そして『異変』は後半10分ごろに訪れた。山口の選手の脚が止まったのだ。それも、ほぼ全員。岐阜は中盤でほとんどのボールが拾える、いわゆる“タコ殴り”で攻撃を仕掛ける。なんで、こんな早い時間に、しかも全員の運動量が落ちたのだろう。試合後の山口サポとの意見交換会（笑）でも明確な答はもらえなかったけれど、観戦したばかりが感じたのは、「そろそろリーグ戦も折り返し点が近づき、スタメン組は蓄積した疲労が影響するころ」「山口のオートマチック攻撃に対して岐阜の選手がキチンとつないでいなし続けたことで、山口の選手にダメージを与えていた」「長良川の水含みのピッチ」の3要素の相乗効果だったのではないか。キョーゴの同点、逆転ゴール。いずれもそんなに強いシュートではなかったと思うけど、GKも動きが重かった。よし、この試合、獲れるっ！と思ったさ。しかし、山口には「高性能クラゲ」とでも呼ぶべき謎の動きでマークをはずすオナイウがいる。さっくりと同点に。その後、前線からかきまわす役割だったと思う大崎が退場になって山口は10人。チーム状態が悪いうえに、10人で、アウェー。ここで「攻めて攻めて勝ち点3を奪ってこい！」と指示を出す霜田監督ではないね。8人が中にガッチリとブロックをかけて岐阜の突入を許さない戦術に出る。左のキョーゴがフリーになっても気にしない。とにかく、中に突入させない。で、キョーゴはひたすらひたすらクロスを入れ続けるが結果には至らない。ここ、ちょっとというかかなり残念なところで、いま岐阜で一番の決意力を持つキョーゴがクロス供給者に徹してしまったこと。若干バランスを崩すことになるけど、クロスは福ちゃんに任せてキョーゴは中に入っていた方がより相手には脅威になったんじゃないか。山口の必死の策につきあってしまった感否めない。

というわけで、この試合の感想は「『勝ちたかった』『勝てた』『勝たなきゃいけない試合だった』の、あなたならどれを選ぶ？」ということになる。首位相手の勝ち点1は、結果だけみれば上出来なんだけど、やっぱり、ちょっともったいなかったね。（吉田铸造）

【第21節】山形2-0 岐阜

●いつの間にか2018シーズンも前半戦最終戦。その相手は、下位に沈んでいたと思ってたのに、いつの間にか8戦無敗・3連勝でウチの順位を抜かしていた山形。雷雨で関係者も含めてスタジアム内に避難し、一時は開催も危ぶまれた天候は直前に回復して（苦笑）、無事に試合開始に。

……しかし、岐阜の調子が明らかに悪い。というか、前々から明らかになっていた問題点ではあるのだけれど、良くも悪くも岐阜のサッカーは“特殊”で、慣れないとチームにフィットしない。だから、スタメンは否応なしに固定されてしまう。今節は#2阿部正紀が累積警告で出場停止になったのだけれど、明らかにチームのバランスが崩れていた。それと、前節対戦した山口もスタメンがほぼ固定されていて、それが前節、早々に足が止まったことに繋がったのかなと感じていたのだけれど、今節は自分たちがそれを痛感することになる（溜息）。疲労が蓄積しているのと、雨を含んだピッチの影響で、選手の足が重い。そして、山形も『対FC岐阜攻略法』の教科書となってきた感のある（苦笑）、前線からのハイプレスで仕掛けてくる。山口戦の後半のように、素早くパスを回して縦にボールを入れて、そのプレスを剥がすことが出来れば良いのだけれど、今節はそれが出来ない。横や後ろにパスを出すことになり、ボールを“持たされる”展開に。そうして押し込まれ、自陣でボールを奪われてショートカウンターで失点。ここで立て直せば良かったのだけれど、CKを押し込まれ、再び失点。これで守備を固めてカウンター狙いに移行した山形の陣形を崩すことが出来ない岐阜。相手のカウンターを誘って、そのボールを奪った場面でも、こちらも一気に攻めてカウンター返しを狙えば、まだ得点のチャンスはありそうなのに、少しプレスを掛けられただけで、前を向けずにボールを回して、相手に陣形を整える時間を与えてしまう。頼みの#11古橋亨梧や#7田中パウロ淳一の突破も、そのコースに蓋をされてしまい、機能しない。選手交替も、チームバランスを向上させるには至らない。結局、0-2で敗戦。シュートは8本撃ったものの、枠内シュートはわずかに2本。決定機は…あったかな？というように、残念ながらほぼ見せ場のない試合内容だったと思う（溜息）。試合終了後、僕らサポーターの前に挨拶に来た選手たちの表情は、悔しさで溢れていた（と、思う）。もちろん、ブーイングなどせずに僕は『まだやれるだろ！もっとやれるだろ！』と叫んだのだけれど（苦笑）。

さて、現時点での『対FC岐阜攻略法』が相手チームに広く知られるようになった以上、チーム力の底上げを図らなければ、ここから上には行けない。さらなる進化を、チームとしての積み上げを。あるいは、選手の補強を。町田・山口・山形と対戦して、後半戦に向けた課題が見えたような気がした。（ささたく）

●同じ月の内に満月を2回見ることを「ブルームーン」というなら、同じ月の内に同じ相手に2回負けることはなんて言うんだろう？「ああ、『同じ月の内に同じ相手に2回負けた』でいいのか」。そんなしょうもないことも考えていたNDソフトスタジアムからのシャトルバス車内。やっぱり、それなりにキツかったんだなあ、今になって改めて思う。試合後の挨拶に来てくれた選手達もそんな気分だったんだろうか。山形市内で一泊して、山形のお酒と美味しいモノで験直しをした翌日。帰りの山形空港からの便が、社長を始め、監督、コーチ、スタッフ、そして選手といっしょになってしまっただけで落ち着かなかった。選手が隣の席じゃなくてよかった。正直ホッと胸をなでおろしたことを懺悔しておきます（苦笑）。

自宅へ戻ったらDAZNで見逃し配信がルーティンなんだけれど、今回は未だ見る気になれない。なんというか、ゲップが出るくらい、同じ状況を何度も見たような気がする。昨季に、むりやり引き戻されたような感じ。長沼のシュートが外れた前半のアノ場面から試合終了までチャンスらしいチャンスつ

てあったっけ？

そんな厳しい展開で先制されたのが、水を含んだ芝生に足を滑らせるというミスからというのが、また何とも言えない残念な気分になってしまう。すべてが悪循環だった。これは、山形に脱帽するしかないのかな？今季有効だった縦へのボールが封じこまれ、キョーゴもパウロも窮屈そうだった。山岸も賢星も、局面の打開を試みていたけど、2点のビハインドは厳しく、山形の優位は終始崩れなかった。どう見ても『完敗』でした。反省して、対策を練って仕切り直すしかない。それがわかっていたから、試合後の挨拶の前にコルリが「みんなの思いを選手に伝えましょう！」と呼びかけたんだと思う。ソレを受けて、たくさんの仲間が最前列に並び、選手に楯を飛ばした。でも、罵声や野次はひとつとして聞こえなかった。そういう場面ではないと誰もがわかっていたんだと思う。場数踏んでるなあ、岐阜サポは（笑）。

そんな、少し残念な前半戦の締めくくり。しかし、勝敗が五分で得失点差がプラス。これは過去最高の折り返し。まだまだ上位は射程圏内。今後は山形のようにウチをハメてくる相手も増えるだろう。研究されているということだ。そのミッションを90分やりきるクラブが上位にいるんだろう。逆に、自分たちのストロングスタイルを前面に押し出してくるクラブには破壊力がある。要は手ごわい相手ばかりということだ。でも、彼らに勝たないと目標は達成できない。夢をつかむために、願いを叶えるために後半戦も出来る限りのサポートをしようと思う。（ぐん）

【ユース】東海プリンス、2連勝

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）は今年東海プリンスリーグに参戦しています。一時中断していたリーグ戦が6月23日の第6節から再開され、FC岐阜ユースは今年同期昇格してきた名古屋経済大学高蔵高校との対戦が有りました。結果は4対1で今季初勝利！（万歳！！）そして続く6月30日に行われた第7節藤枝明誠高校戦にも1対0で見事勝利！！2連勝する事が出来ました！！（嬉涙）これで通算2勝0分5敗の勝点6で10チーム中9位となる事が出来ました！上を見れば勝点3の間に3チームがいますので次の試合の勝敗次第では降格圏を脱出する事が可能かも知れません。

昨日7月7日には笠松町のGFCにて第8節の清水桜が丘高校戦が予定されていましたが、結果はどうだったのでしょうか？吉報が届いている事を期待しています。

今後の日程は、7月14日にリーグ折り返し点となる第9節の浜松開誠館高校戦が予定されていて、その後は暫く夏休みの為にリーグ戦は又中断期間となります。プリンスリーグ残留に向けて一試合ずつを確実に戦って行きましょう。

頑張れよ、応援しているからな！！FORZA！FC岐阜ユース！！

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ずJFAやチームの公式サイトで確認して下さい。

（シュナ）

